

氏名(本籍)	かじ 梶	むら 村	みつ 光	お 男	(島根県)
学位の種類	理学博士				
学位記番号	博乙第664号				
学位授与年月日	平成3年3月25日				
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当				
審査研究科	生物科学研究科				
学位論文題目	Taxonomy and biogeography of marine algae in the middle to southwestern part of the Japanese coast of the Sea of an (日本海日本沿岸中～南西部に於ける海藻の分類と生物地理学的研究)				
主査	筑波大学教授	理学博士	千原	光雄	
副査	筑波大学教授	理学博士	横濱	康継	
副査	筑波大学助教授	理学博士	原	慶明	
副査	筑波大学助教授	理学博士	牧岡	俊樹	

論文の要旨

本論文は3部より構成される。1部は日本海日本沿岸中～南西部の海藻フロアの概略、2部は分類群の記述、3部は調査地域の生物地理学的考察である。

第1部 上記調査海域において計217属、513種の海藻類の生育を確認した。内訳は緑藻綱24属81種(うち新属1, 新種2, 日本新産種1), 褐藻綱51属110種(うち新属1, 日本新産種4), 紅藻綱120属270種(うち新種8, 日本新産種3), 藍藻綱22属52種(うち日本新産種6)である。

第2部 海藻類の多くは体は外形が単純であるが内部及び生殖器官の構造は複雑である。このことから、分類の基準にはそれらの形質が主に採用されている。著者は採集した材料について逐一それらの性質を調べ、多くの分類学上の知見を得た。主な成果に次がある。1. 緑藻綱ニセミルモドキ属(*Pseudocodiopsis*)の設立。管状緑藻ミル属及びニセミル属に類似するが、生殖器官の位置、胞囊(utricle)の構造、体の分枝様式と基部の形態等の特徴に基づいて新属を設立した。2. 褐藻綱クロソメ属(*Streptophyllopsis*)の設立。コンブ科植物*Hedophyllum*属の1種と考えられていたが、葉状部は1年性で縦裂しない、茎状部は多年性で円柱状、仮根は1次及び2次に分化するなどの特徴から、*Hedophyllum*及び近似属*Streptophyllum*と異なることが判明し、新属の設立を見た。3. 紅藻綱ベニハネグサ連(*Gymnothamnieae*)の設立。頂端細胞が横裂する成長様式、皮層を欠く体構造及び雌性生殖器官の位置と構造等の特徴に基づき、近緑の*Ptiloteae*連及び*Antithamnieae*連より独立させ上記の新分類群を設立した。

第3部 調査海域の海藻フロアの生物地理学的特性を解明する目的で、日本沿岸の既調査地20点を

選び、種組成の共通係数を算出し調査海域の海藻フロラとの類似度の比較を行った結果、隠岐島沿岸を含む調査海域は、海洋生物地理学上、日本海分布区に所属するが、この分布区は能登半島を境界に南西亜区と北東亜区に細分するのがより自然であり、調査海域はそのうちの南西亜区の主部分を構成すると結論した。この場合の生物分布の主たる要因は海流と海水温度である。

審 査 の 要 旨

日本における海藻フロラの研究は太平洋沿岸では比較的よく行われているが、日本海では少なく、特に本州中～南西部海域では皆無に近い。著者は隠岐島に所在する臨海実験所に勤務という立地条件を生かし、20年余年に亘り能登半島より西部の本州日本沿岸の海藻フロラの研究に従事してきた。海産大形植物のフロラの研究は陸上植物のそれと較べて多大の労力を必要とする。著者は干潮時及び潜水による調査・採集に加えてドレッジによる深海性海藻の採集も行い、豊富な研究材料を得、詳細な分類学的研究を行って調査海域のフロラの解明に成功した。それらの成果は国際会議、国際雑誌等を含め内外の学会や学術雑誌に39編の論文として公表され、著者の力量は専門分野の学者達にも高く評価されている。

よって、著者は理学博士の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。